

サ 小 金 井 稲 門 会

WASEDA UNIV. ALUMNI
小金井稲門会
KOGANEI TOMONKAI

発行: 小金井稲門会
事務局: 小金井市東町4-13-12-307
皆川保則方
電話: 080-5467-2270

目次: 1P「小金井稲門会ニュース」 2P～5P「特集」 6P「夫婦のお話」 7P「居酒屋研究会」 8P「小金井まち発見! / この1枚 この思い」

小金井稲門会ニュース

「市民文化祭での取り組みがNHKのHPに」



全国で花は咲く #145 公開日: 2016年5月25日

このビデオに参加されたみなさん (登場順・敬称略)

KOTONAMI ALL STARS (香川) / くりーんばる (福岡) / 自由への讃歌 (東京) / 名取市小塚原北町内会合唱隊 (宮城) / 石狩中学校1年A組 (北海道・平成27年度) / 歌いいね♪クラブ小金井 (東京) / 済美平成中等教育学校1年3組 (愛媛・平成27年度)

ツイート シェアする チェック + 共有する ?

※NHKサイトを離れます

(写真左より、鮎川さん、横田さん、村上さん、富士森さん、菊池さん、東さん、遠藤、田口さん、今中さん、吉田さん、桂さん、亘理さん)

小金井稲門会カラオケ部会メンバーと市民の有志が「歌いいね♪クラブ小金井」を結成。昨年の第3回市民文化祭では12人のメンバーが復興支援ソング「花は咲く」を斉唱しました。

そのミュージックビデオが、5月25日にNHK「100万人の花は咲くプロジェクト」HPに掲載されたのです。20秒ほどですが、ぜひご覧ください。

全国で花は咲く #145 (文末にQRコードもごさいます)
http://www.nhk.or.jp/ashita/hanaboshu/video/20160525_1.html#video

代表の横田満男さん(1955年卒法)は、こう語っています。

『歌は世につれ、世は歌につれ』といいます。この『世』を今地球規模で俯瞰すれば行く末大不安の態で

すが、こんな中、カラオケは隆盛です。私たちも小金井稲門会カラオケ部会の有志で『歌いいね♪クラブ小金井』を立ち上げて市民文化祭に参加しました。

昨年は仲間の遠藤圭司さんのアイデアで、NHKの『100万人の花は咲く』プロジェクトに投稿したら、インターネットの動画で『全国区』、いや『全地球区』に放映されたのです。そう、いまや『歌は地球につれ、地球は歌につれ』なのです」

副代表の桂雄二郎さん(2ページにもご登場)は、「今後も積極的に考えていきたいですね。『まとまり』と『温かさ』の面で、今後はもう一工夫していけたら」と意欲を燃やしています。

ぜひ、みなさんも一緒に!

(遠藤圭司・記)



QRコード

特集 続・地域に貢献する小金井稲門会会員たち

前号に続いての第2弾。4人の方にご登場いただきました。献血ボランティア、障がいを持つ子どもたちへのボランティア、ピンシャンコロリ、公民館の運営審議会など、その幅広さに驚きます。(2ページから)

献血の提供者を募るボランティア 桂 雄二郎さん（1993年 教育大学院修了）



「現在私がやっているのは、血液の提供者を募る活動です。小金井献血推進協議会というところが母体となる組織です。色々な企業や団体をお願いして場所を提供していただき、そこを拠点にして周囲の人たちに献血を呼びかけるのが活動の中心です」

——なるほど。

「大きなイベントの時を含めて年間32回活動しています。献血していただいた方にはジュースなどを差し上げるほか、くじで景品が当たるというお楽しみも用意しています」

——献血された血液はどのように利用されるんですか？

「病気や事故に対処するための手術で使用するのはもちろん、出産の時にも必要なことがあります。また血液製剤の原料になることもあります」

——献血は誰でもできるんですか？

「16歳から64歳までの健康な方、ということになっています。病気の人だと、飲んでる薬によっては血液が使えないこともあるんですね。もちろんご本人の健康に対する配慮もありますし。

70歳になると肉体の造血機能が衰えるようで、

献血はお断りしています。すでに献血を経験した方だと献血可能年齢が69歳まで延長できることになっております」

「かつては高校でも献血推進活動ができたのですが、最近は厳しくなっておりまして、なかなか協力が得られない、というのが現状です。血液は長期保存がきかないですからね。若い人がどんどん献血してくれるような形が望ましいのです。それから献血に際しては、簡単な検査を行います。主として血液濃度を調べ、他人に提供し得る血液かどうかを確認するわけです」

——不合格になる人もいますか？

「2～3割いますね。そういう方は事情をご説明して献血を遠慮していただくことになります」

——ちょっと悲しいですね。

「ここに過去1年間のデータがあるんですが、献血を募った場所によって合格率が随分違うことが分かります。この中で一番採用率が低かったのが学芸大学でおこなった時ですね」

——若い大学生が一番低いとは！

「逆に最も採用率が高かったのが警察でやった時です」

——やっぱり頑強な肉体の持ち主が多いんですね。

「日立も高いですよ」

——実は昔の話ですが、某大学病院で手術のための献血をしたことがあります。数日後、その病院の担当者から電話があって、あなたの血液は使えないから捨てた、と聞かされました。これにはかなりつらいものがありました。

「でも健康チェックができる、という意味でも献血は有益なんですよ。その後生活態度を改めて健康増進に努めましたか？」

——いえ、それがまったく…

「あなたのような人を減らすためにも、献血の推進や、それに伴う啓蒙活動は大事ですね。今日はそれを痛感しました」

（聞き手・宮浦孝明）

知的障害を持つ子どもたち・高齢者のボランティアを15年

山崎 文雄さん (1963年卒 政経)



「以前働いていた会社を退職したのが直接のきっかけです。何か自分にできることはないか、と市に問い合わせると、いろいろ教えてくれるんですね。そうして始めたのが、知的障害のある人や高齢者に関わる仕事です。それから早や15年。

今、活動はいったん休止中ですが、ここまでやってこれたのも周囲の人々のおかげだと感謝しています」

——具体的なお仕事の内容は？

「一番最初にやった仕事、まあこれが14年も続くんですが、やはり強く印象に残ってますね。学校の週5日制にともなって、空いた土曜日に何かしよう、というグループがあったんです。そこで月に1～2回知的障害のある子たちに水泳を教えよう、という活動をやっていました。そこでのお手伝いが私のボランティア活動の原点です」

——泳ぎを教えてたんですか？ 難しくなかったですか？

「いや、水泳の先生は別にいて、私はそのお手伝いです。プールが結構な深さでね。そこで危なくないように気を配ったり、体を支えたりしました。

それ以上に大事なのが着替えの手伝いです。一人で服を着替えられない子もいるんです」

「その子どもたちと阿波おどりに参加しています。正式な仕事ではないですが、子どもたちにとっては年に一度の晴れ舞台。

彼らのはじけるような笑顔が私たちも嬉しいし、疲れを忘れます。これは当分やめられないと思います」

——他にはどういう活動を？

「送迎の仕事が多かったですね。ワゴン車を運転して、お年寄りを自宅から施設までの送り迎えです。運転はえらく上達しました」

——ワゴン車の運転は難しいのでは？

「最初の頃、施設の職員の人から『とにかくゆっくり走って下さい』って言われたんです。乗せる相手によって、それに相応しい運転があるんだな、ということがわかりました」

「それから、これは声を大にして言いたいんですが、武蔵小金井駅前のロータリーに、障害者用の乗降スペースを作ってほしいと思います。他の駅でもよく見かけるでしょう？道路にラインを引いて場所を確保するだけで全然違うんですよ。何とかして下さいよ!」

——いや、そういうことはもっと力のある人に……。ところで15年間もそういう活動が続けることができた秘訣があれば教えてくださいなんですが。

「ペースを守った、ということでしょうか。体力的にきつい仕事もあったんですが、毎日こういうことをやろうとすると続かないんです。休みも入れて自分の体と相談しながら、というのがいいんですね。下手に頑張ってバテてしまったら、かえって迷惑をかけることになります。だから休みたい時には休む、というのも大切なことだと思いますよ」

(聞き手・宮浦孝明)

小金井明るい社会づくりの会、NPO法人福祉会「希望の家」、 NPO法人ピン・シャン・コロリ研究会など

島村 芳哉さん (1964年卒 商)



——ボランティア活動のきっかけは？

「定年退職後、自宅近くにある栗山公園健康運動センターに行ってみると、地下にプール、4階にフィットネス施設があったので、余生を健康に生きるため運動を始めました。

1階の軽食喫茶店「ティールームくりやま」に立ち寄ると、当時の小金井稲門会会長をしておられた故 齋藤英一さんや佐野浩さんにお会いしました。

そこは、障害者と高齢者が働ける施設であり、手伝わないかと誘われ、私も高齢者であり、障害者の友人もいるので手伝うことにしたのです」

——もう15年ほどになるそうですが、実に様々な活動に取り組まれていますね。

「はい。そこでのお二人との出会いがきっかけとなり、小金井稲門会にも入りました。

稲門会でお会いした武車(幸雄)さんが会長をされていた小金井市ラジオ体操会連盟は、小金井公園と栗山公園でも毎日体操(NHKのラジオ体操と小金井体操、みんなの体操計30分)をしており、私もずっと続けています。」

——ラジオ体操は多くの市民の皆さんが参加されているそうですね。小金井稲門会のご縁

でいろいろと活動されていますが、その他、続けている活動は？

「弁護士の故 藤森勝年さんにお会いすると、医師の故 廣野恵三先生とピン・シャン・コロリ研究会(以下PSKと称す)という組織があるので、入会しないかと誘われ参加しました。

PSKは、医師と弁護士が発起人になって作った組織で、患者本人と家族の意思を無視してただ延命手段を続けるのは避けられないか、という趣旨に共鳴しました。

発起人の医師と弁護士がコロリと逝ってしまったのですが、PSKの理事の1人として継続して活動しています。活動の一環として、成り行きで藤森さんが脚色した寸劇で女形を演じましたが、お客さんに楽しんでもらえたのはいい思い出です」

——演技もされるとは多才ですね(笑)。

「小金井明るい社会づくりの会」の活動にも携わっているそうですが？

「たまたま近所の方が事務局で活動していたご縁で、お誘いいただき、関わるようになりました。現在は事務局で、清掃奉仕、交通安全自転車教室、歳末助け合い募金など様々な活動に取り組んでいます」

——島村さんの活動のルーツは、为什么呢？

「私は33年間、医科向けの薬を製造販売する製薬会社に勤め、医薬品で病人を治す仕事を手伝ってきました。

私は医師でも薬剤師でもありませんが、医学・薬学の知識なくとも、障害者を地域でケアする施設で、障害者を交え、支える立場で、余生を送ろうとしています」

——在職中のご専門や、小金井稲門会のご縁を活かして、幅広く地域貢献活動に取り組まれる様子が伝わってきました。お話をありがとうございました。

(聞き手・遠藤圭司)

小金井市公民館運営審議会委員 國分 ひろみさん (1969年卒 文)



——昨年9月から公民館運営審議会委員を務めているそうですね。どんな役割を担っているのですか？

「ほぼ月1回のペースで会議があります。さらに三者(社協、図書館、公民館各審議会)懇談会が数回あるほか、年1回東京学芸大学で開催される『青少年のための科学の祭典』に参加しています。東京都の公民館連絡協議会委員部会研修などもあります」

——どんな人たちが委員を？

「様々な分野の団体を代表する方々、学校長・学識経験者と公募市民3名を合わせた10名で構成されています。私は、教育・学術・文化関係団体の代表として参加しています」

——どんなきっかけで委員に？

「昨年度、早稲田大学で学芸員資格の講座を受講しました。必修科目に『生涯学習論』があり、その中の戦後市民の文化活動の中心となった公民館運動に興味をもったため、応募しました」

——今まで、参加してみてもいかがでしたか？

「公民館活動が、ほとんどの市民に浸透していないんだろうと感じました。ベテランの審議委員は実によく勉強され、発言も活発で、私も刺

激を受けています。高齢化社会の中で、介護や福祉問題が大きくなり、一方では地域活性化に向け若者の教育・文化活動の推進、拠点づくりも必要な状況です。時代が変わり、公民館活動のあり方も当初の理念より変化している様子です。

とりわけ、小金井市では貫井北センターが、若者が企画運営に参加し、NPOが主体となっていて注目されます。『青少年のための科学の祭典』に参加し、内容と規模に驚きました。中・高校生のボランティアもいたり、小さい子も科学体験ができたり、有意義な催しだと思いました」

——公民館のあり方について感じていることを教えてください。

「福祉会館の使用停止によって、その中にあった公民館本館がどのようになるかは、まだはっきりしていません。審議会でも、公民館の中長期計画策定について討議中です。『これからの公民館とは？』が模索されつつある状態と感じます。

先日、小金井稲門会主催の市民公開講座で、新田國夫先生のお話を聴き、国立市が行政を巻き込んで、医療、介護、福祉、市民が高齢社会に対応できる街づくりに動いていることを知りました。行政も公民館などもこうした視点で活動すべきではないかと、いま考えています。公民館と街づくりの関連性を模索していく必要があると感じますので、今後、問題提起していきたいと思います。

——公民館をとりまく状況やお考えがよくわかりました。今後益々、充実した審議になることを期待しています。ありがとうございました。

(聞き手・遠藤圭司)

* 書家としてもご活躍の國分さん。文化・芸術活動を通じて、生涯学習の拠点としての公民館に関心を紡ぎ、街づくりに貢献しようという意欲が伝わってきました。今後のご活躍を祈念しております。

新シリーズ



「夫婦のお話」



第1回

♠坂井 研次郎さん (1959年卒 理工)

♥加代子さん

近年、ご夫婦で稲門会活動に参加されている
カップルが増えています。そんな仲良しご夫妻
の出会いや思いなどを今号からシリーズでご紹
介します。

——まずは、お二人のなれそめを。

♠出会いは、昭和37年ごろだったかな。場所は銀座のサンケイホールで行われたダンスパーティーでね。当時は、ダンスが大流行していて、僕は大阪に赴任しているときに習っていたんです。

♥私のほうは、ダンスなんて踊れないのに、友だちに誘われて参加したの。そうしたら、後ろから声をかけてきた変わった男性がいて、それがこの人だった。

♠そうそう。後ろ姿に惚れてね(笑)

♥話してみると、マジメな人だってことがわかり、お付き合いすることになりました。母から厳しく言われていたんです。「結婚するなら、マジメな男性にきなさい」って。でもね、結婚後にわかったのは、単なるマジメじゃないってこと。「バカ」がつくほどのマジメさんでしたね。

♠結婚してから、妻に頭が上がらなくなりました。彼女はピアノ教室を開いていて、それが大人気。当時は「子どもにピアノを習わせる」のがブームだったからね。僕の給料の倍以上稼いでいたよ。車の免許も僕の知らないうちに、先に取ってしまうし。だけど、時は日本経済の高度成長の真っ只中で、仕事が忙しくて子どもの面倒も家庭サービスもできなかったね。

♥そうですよ。一人で大変でした。でも、なんでも黙ってやらせてくれたので、私は好きなようにできて、いばっていたわね。

~~~~~

♠リタイヤしたら、もっと時間ができると思っていたんだけどね。12年前に退職し、それから稲門会や町会に入って、役職につけられたら、また忙しくなってしまったんだね。

♥あなたはマジメでお人よしだから。私も夫に誘われて5年くらい前から、稲門会のイベントに参加するようになりました。会員さんのみなさんとお話するのが楽しくて、楽しいからまた参加するみたいことになって、このごろは女子会のメンバーにもなりました。今年の6月にツアーグルメで日帰りバス旅行に行ったんです。帰りのバスのなかでは、みなさんと笑い転げて、盛り上がった勢いで酔っ払っちゃいました。こんな気さくなお付き合いができるのは稲門会ならではのですね。

♠ツアーグルメでいくレストランが、偶然、僕たちにすごく縁の深いところだったことがあったんです。しかも、それが2回もあってびっくりしたね。

——3年ほど前に金婚式を迎えられたとか。振り返ってみて、いかがですか。

♠あっという間だったね。今こうして二人で稲門会に参加するなんてことはまったく考えていなかったけど。入院のため、また年齢も80歳になったので、10年続けた町会長をようやくやめ、稲門会の会計・その他も皆さんに代わってもらいました。今後は少しゆっくりしたいですね。

♥ここ1年は、夫の入院でとても心配な毎日でした。6月に二人でツアーグルメに参加できて、本当によかったです。

——8月の暑氣払いにもぜひお二人でご参加ください。本日はありがとうございました。

(聞き手・福岡貴子)

新企画

(いざけん)

# 居酒屋研究会

いざゆかん!

## 第1回「大黒屋」の巻

活性化しつつある小金井稲門会に、非公認だが新たな活動グループが誕生した。その名も「居酒屋研究会」(略称・いざけん)。

会の実態はまだ明らかではないが、まずは小金井市内の個性的な居酒屋を探訪し、ザ紺碧に報告記を載せるらしい。

その第1回は、JR武蔵小金井駅北口から徒歩3分ほどにある「大黒屋」(だいくや)。



カウンターに9つ、3つのテーブルには6つずつ丸椅子がならべられている。テーブルの横には補助席のように丸椅子が2つ。

つまり、あわせて33の丸椅子が客を待ち構えている。

居酒屋研究会の第1回研究対象としてこの店を推薦したのは、ワセダの学生にして居酒屋を経営した経験を持つ今中京平さんである。居酒屋研究会では、主任研究員をお願いしている。

テーブルやカウンターにメニューは置いていない。調理側とその反対側の壁に貼ってあるだけである。

もつ焼きは1本100円(税別、以下同)。もつ煮込みは400円。おひたし250円。ざっと見渡した限り、食べ物で500円を超えるものはない。いたって庶民的だ。

飲み物は生ビール、瓶ビール、ホッピー、焼酎、清酒。ワインなんていう、こじやれたものは置いていない。

生ビールは大が550円、小が360円。中はない。これは瓶ビールも同じだ。

この「生中」全盛の時代の流れに反旗を翻すようじゃないか——と、うれしくなってしまう。

もつ煮込みは、1日以上は煮込んでいるのだろう。もつはとろとろに柔らかく、大ぶりの豆腐やじゃがいもにも味がしっかり入っている。



もつ焼きは9種類。頭(かしら)、胃袋(がつ)、白(しろ)、軟骨、てっぼう、タン、ハツ、膾(ちつ)、レバー、小袋。タンとハツを2本ずつ頼む。(膾にも興味はひかれたが、勇気を奮い起こせなかった。)

小ぶりのもつ焼きは、良く火が通っていた。血圧を気にして減塩生活にある身にとっては、少々しょっぱい。



主任研究員は「この店はカウンターが低いんだよ。つまり店側と客側の敷居が低い。開放的な空間なんだね。今の個室居酒屋とまったく逆の方向性。これが本来の居酒屋なんだろう」と説明する。

なるほど。だからどことなく懐かしさを感じるわけか。昭和の色合いが濃く、昭和を生きた男女が集まってくるのである。

お客さんたちの多くは長居をしない。1人客は1時間ほどで帰っていく。客の注文が少し減ったところ

で、女将の神保さんにお話を聞いた。



開業したのは、昭和30年です。義理の母が始めて、私は2代目。

大黒屋という名前の由来ですか？母が「大黒屋という名前につぶれた店はない」というので。

母の夫、つまり私の義理の父はシベリヤに抑留され、帰ってきませんでした。戦後の生活のために、居酒屋を始めたのでしょう。

苦勞ですか？そうねえ、店内でトラブルがあってもお客さんが止めてくれます。お客さんが、助けてくれるんですよ。



女将はそういって優しい笑顔を浮かべた。



いつの間にか、カウンター席の端には、平成生まれとおぼしき若い女性が1人で座っている。

時代は移り変われど、この店が持つ《人のぬくもり》は変わらない。そこが世代を超えて魅了しているのだろう。(佐藤和雄・記)

\*居酒屋研究会は随時開催する予定です。メールやHPでご案内申し上げます。(事務局・佐藤)



## 新企画 会員が探る！まちの魅力・まちのなぞ

### 「陛下が小金井で召し上がったもの」

《天皇、皇后両陛下は5月31日、東京都小金井市の小金井公園を訪れ、天皇陛下が学習院中等科時代を過ごした思い出の地をめぐられた。》

市報でも大きく紹介されたこのニュースをご存じの方は多いでしょう。でも、この日のお昼どき、両陛下が小金井公園の「江戸東京たてもの園」内で何を召し上がったかを知る人は、少ないのではないのでしょうか。実は、武蔵小金井駅北口にある老舗割烹「真澄」がお食事をご用意したのです。一体なぜ「真澄」が選ばれたのでしょうか？

この「なぞ」に迫るため、お店と懇意にされているという前会長の亘理鐵哉さん(1963年卒理工)にお願いして、お話を聞いてもらいました。お食事をご用意するお店として「真澄」をアレンジしたのは、西岡真一郎・小金井市長だったそうです。西岡市長と「真澄」の現在のご主人は、小金井青年会議所でのつながりがあり、そのご縁からというお話でした。両陛下のお食事メニューは、店内に飾ってあります＝写真。(さ)



新企画「会員が探る！まちの魅力／まちのなぞ」は、小金井市内の魅力やなぞを、稲門会の会員みなさんに探っていただきます。情報のご提供をよろしくお願いします。

## 新シリーズ 「この一枚 この思い」 関口 朝四 (1955年卒 政経)

この年、異常気象に見舞われて、桜前線が予想外の速さで北上した。北の桜の名所、角館・弘前・北上でサマになる写真を撮る算段の旅が、どこも散り残りで見るべき桜なし。

やむを得ず、予定外の小岩井農場へ。そこで見たのは、残雪の秀峰岩手山の下に広がる農場ならではの牧草地。その中に、風雪に耐え巍然(ぎぜん)と立ち、気品あるたたずまいの一本桜。

この出会いに呆然。感動しばし。立入禁止等の悪条件も重なった思い出の深い一枚である。



さまざまなこと 思ひ出す 桜かな (芭蕉)